

## 抗 Laminin $\alpha 3$ 抗体、マウスモノクローナル(BM515)

70-350. 100  $\mu$ g

出荷・保管: 4C にて発送、-20C にて保管。凍結しないでください。

免疫原: ウシ角膜 BM 画分

特異反応性:ウシ、ヒトと反応する。他の動物種では試験されていない

製品: IgG 画分、プロテイン A でアフィニティー精製。PBS 中 1mg/ml、50%グリセロール、フィルター滅菌

用途:

1. ウェスタンブロット法(1/2500)
2. 免疫蛍光染色(1/100~1/300)
3. 免疫組織化学、凍結切片(1/200~1/1000)

アイソタイプ: マウス IgG1

背景: ラミニンは、高親和性受容体を介して細胞に結合し、他の細胞外マトリクス成分と相互作用することにより、胚発生中の組織への細胞の付着、移動および組織化を媒介すると考えられている。

ラミニン  $\alpha 3$  は分子量 367kDa の 3,333 アミノ酸からなる前駆体として合成され、290kDa の成熟型にプロセシングされる。

Database: UniProtKB:[Q16787](http://www.uniprot.org/entry/Q16787) (LAMA3\_HUMAN)

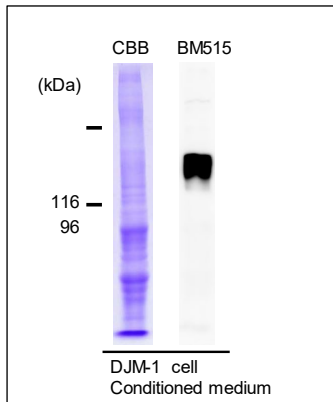


図1 ウェスタンブロット分析

DJM-1 細胞から調製した濃縮馴化培地を BM515 抗体(1:2500 希釈)で免疫ブロットした。この抗体はラミニン  $\alpha 3$  鎖のプロセシング型に対する 165-kDa バンドを検出した。調整培地は硫酸アンモニア沈殿により濃縮した。化学発光検出キット EzWestLumi plus (ATTO、東京、日本)を用いて蛋白質バンドを可視化した。

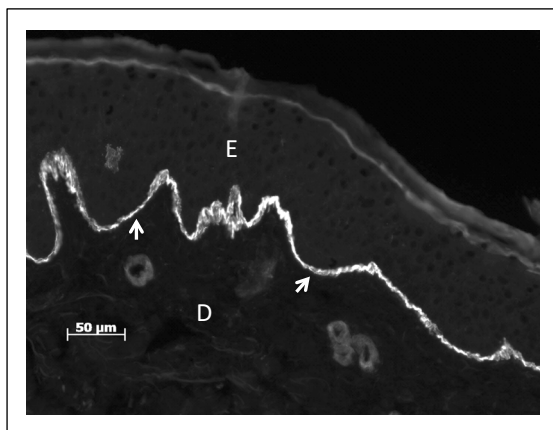


Fig.2.ヒト皮膚におけるラミニン  $\alpha 3$  の免疫組織化学的染色

凍結アセトン固定ヒト皮膚切片を BM515 抗体で 1/500 希釈で染色した。抗体は真皮-表皮接合部(矢印)におけるラミニン  $\alpha 3$  鎖の位置を明らかにした。E: 表皮、D:真皮。バー; 50  $\mu$ m

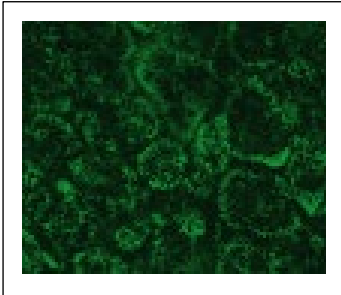


図3 抗ラミニン  $\alpha 3$  抗体によるDJM-1細胞におけるラミニン  $\alpha 3$  の免疫蛍光染色。

DJM-1 ヒト皮膚扁平上皮癌細胞株である細胞を、KGM (ケラチノサイト基底培地、(Lonza)から  $Ca^{++}$ を抜いた)で増殖させ、アセトンで固定し、BM515 モノクローナル抗体 1/200 希釈で染色した。

使用文献：文献2にこの抗体を記載し、以下の文献で使用した。

1. Hirako Y et al. Isolation of a hemidesmosome-rich fraction from a human squamous cell carcinoma cell line. [Exp Cell Res.](#) 2014 Jun 10;324(2):172-82. PMID: [24726610](#).WB,IF
- 2.Uematsu J, et al. Both type-I hemidesmosomes and adherens-type junctions contribute to the cell-substratum adhesion system in myoepithelial cells. [Eur J Cell Biol.](#) 2005 Mar;84(2-3):407-15. PMID: [15819417](#) IHC-Fr (bovine)